

新藤信夫市政ニュース

平成17年7月

Vol.5

発行:自民党さいたま市議会議員団大宮区支部
TEL・FAX 048-647-7713



あいさつ

新藤信夫

皆様方におかれましては、ますますご健勝にお過ごしのこととお慶び申し上げます。

また、日頃より議員活動に對しましては暖かなご支援とご協力を賜り心から感謝申し上げます。

平成15年の市議会議員選挙からすでに2年が経過し、1期目の半分を折り返しました。平成16年度には総務常任委員会において副市長の重席を頂き、岩槻市との合併や、市長、議員の給与問題に取り組みまいりました。

さいたま市も政令市に移行して2年が経過し、今年の4月1日からは岩槻区も加わって面積217.5km²、10区、118万人の人口を抱える人口規模で全国9番目の政令指定都市に生まれ変わり「新生さいたま市」として再スタートを切ることとなりました。これからは、全国13番目のではなく21世紀最初の政令市として議会改革を始め、行政改革に取り組んで行く必要があります。そして外から見ても「さいたま市は元気だ、パワーを感じる」といわれる都市になるようにしたいと考えています。

この3ヶ月ほどの間に「J日西日本の列車事故、鋼鉄橋梁業界の談合事件、三菱地所の土壌汚染の隠蔽発覚など、大企業の事故、犯罪、不祥事が続出しましたが、かつては公共団体においても公共工事を巡る汚職事件や公金の不正流用など多くの不祥事があり、改革されてきました。その背景には民間企業においては資本主義経営に必要な倫理的基礎と矛盾する日本の文化の問題があるように思えます。これから日本では、ますます少子高齢化が進み、労働力確保や企業収益、税収等に多くの影響が現れていくでしょう。こうした社会情勢の変化はどんな組織にも影響を与え、改革なくしてこの変化を乗り切ることができないでしょう。特に地方公共団体においては、日本的風土としての建前論、現状認識の欠如、リスク管理の発想の欠如があります。地方分権が進むことによって他の公共団体との競争が激しくなり、世界の中でのさいたま市を考えなければならぬ時代がすぐそこまできていると思われ、さらに情報収集の強化とリスク管理が重要性を増してきているであろう。国際化の中で公共団体も企業も資本主義に関わる資格は、公正、透明性、説明責任の厳格なルールに従う経営倫理を持つことであり、その流れは人治から法治への進化であると考えます。



2月議会 予算委員会での質問

「国から地方」へという大きな転換期をむかえ、さいたま市もこうした厳格なルールの上で多様な力を結集し、自立性を高めていく必要があります。

こうした自治体の改革を進めると共に、市民との協働によるまちづくりを進め、誰もがいつまでも住み続けたいまちづくりの達成に向けて努力を続けてまいります。

さいたま市の平成17年度当初予算

予算総額 6,658億2,475万円 (△8.3%)

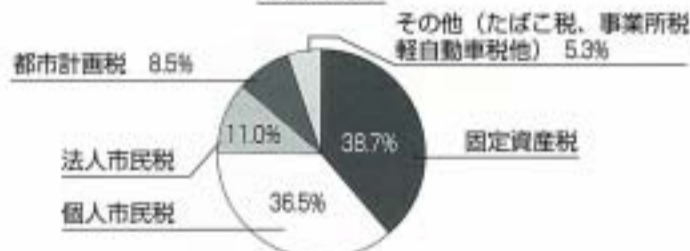
〈予算内訳〉

一般会計	3,634億6,500万円 (△1.4%) (減税補てん償借換分を除くと8.9%増)
特別会計	2,025億6,500万円 (1.6%)
企業会計(水道・病院・下水)	997億9,475万円 (下水道事業が加わったことにより△97.4%)

さいたま市の平成17年度一般会計当初予算



市税の内訳



平成17年度当初予算 1,907億円

さいたま市の平成17年度予算は厳しい財政事情の下で必要な財源確保を図るとともに、岩槻市との合併後の「新生さいたま市」を市民の誰もが住んでよかった、行ってみたいと実感できる、次世代に誇れる理想都市を実現させるために、さいたま市らしいまちづくりに必要な諸事業を積極的に推進するための予算となった。

歳出面では、重点6項目である「子育て支援」「地域資源の活用」「福祉の充実」「市民の安全・安心」「地域経済の向上」「市民サービス」に重点配分されているが、財政調整基金や減債基金を取り崩すことなく前年並みを確保できたことは大きい。

大宮区関係予算

1. ニューシャトル大成駅設備改良事業 16,000千円
2. 鉄道博物館整備促進事業 628,251千円
3. セントラルパーク整備事業 396,656千円
4. 大宮公園サッカー場改築事業 100,500千円
5. 大宮駅東口都市再生プラン推進事業 21,311千円
6. 大宮駅東口駅前地区整備推進事業 53,644千円
7. 複合交通拠点整備推進事業 22,547千円
8. 大宮駅西口都市改造事業 246,475千円
9. 道路照明灯設置業務委託 99,000千円
10. 道路反射鏡設置工事 49,080千円
11. コミュニティ施設特別整備事業 75,365千円
12. 流域貯留浸透事業(桜木中校庭等) 112,600千円
13. 道路等の整備
 - ①南大通東線街路事業 1,149,000千円
 - ②交通安全施設整備事業(中山道の歩道整備) 2,098,376千円
 - ③三橋中央通線街路事業 286,000千円
 - ④歩車分離整備推進調査(氷川参道) 7,200千円
 - ⑤氷川参道ワークショップ等運営委託 3,000千円
 - ⑥氷川参道現況測量業務 4,750千円
 - ⑦産業道路街路事業 137,000千円
14. 特別養護老人ホーム建設補助事業(北・大宮・中央区の3箇所) 1,666,835千円
15. 消防署の移転建設・建替(緑区美園・大宮区・浦和区の3箇所) 1,143,562千円

「活動報告書」を発表—大宮区民会議

「誰もが住みたい、住み続けたいと思える大宮区」、「訪れたい、また来たいと思われる大宮区」という副題の「大宮区のまちづくりに関する提案書」を含む「大宮区民会議平成16年度活動報告書」が6月7日に大宮区区民会議会長である久世晴雅氏から相川市長に手渡されました。当会議では区民と行政の協働による大宮区の魅力あるまちづくりを実現するために、平成15年7月の発足以来2年あまりをかけて、課題を整理し、テーマ別の部会を設置して具体的な活動に取り組んできたものです。



提案書では、大宮区の魅力づくりとして、①大宮駅東口広場の整備、②大宮駅、氷川神社、鉄道博物館、新都心を結ぶ歩行者ネットワークの整備、③未利用地の有効利用、④大宮アルディージャの地域資源としての活用をあげ、子育てしやすいまちづくりや、区民会議の協働に向けた体制づくりにもふれていて、アンケート調査に基づいて大宮区の将来像を幾つかの要望として上げています。また、区民会議の役割の不明確さから当会議の位置付けの明確化と提案等に対するフィードバックを求める内容となっています。

17年度からメンバーを大幅に入れ替えて再スタートを切った区民会議ですが、区民の暮らしに直結する身近な問題を取り上げて、区政、市政に反映できるように取り組んで頂くことに期待しております。

完了近づく鴻沼川改修



大宮区から中央区を貫流して、桜区で鶴川に合流する鴻沼川流域は、昭和50年代から埼京線の開通も手伝って都市化が進み、流域面積1445km²のうち約96%が市街地で占めるまでに至り、平成10年9月16日に来襲した台風5号によって降った189mmの降雨によって、床上床下浸水3775戸が被害を受けるに至った。

この災害を期として、下流部では河川激甚災害対策特別緊急事業と、上流部では床上浸水対策特別緊急事業の採択を受けて鴻沼川の大改修が開始されました。これらの事業は、当初平成10年から5年程度で予定されていた事業期間も、諸事情により延長され、平成18年度が最終年度となりましたが、主要な工事であった上流部の地下河川(延長1.53km、内径5.25m)は平成16年6月に完成し、中央区内の12橋の架替、6.920mに及ぶ河川改修も完成間近となっています。残る桜木調節池も平成18年6月には完成見込みとなり、来年の夏には56,000m³の貯留能力を発揮する予定となりました。

平成18年に来襲した台風22号、23号による降雨でも、ほとんど浸水被害は出なかったが、今後はさらに安全度が向上することになります。

残る桜木調節池から氷川橋間及び、職案通りから上流部についても今後県で改修が予定されています。

保健衛生会館(仮称)工事始まる

人口の高齢化やライフスタイルの変化に伴う生活習慣病の増加、心の健康や新たな感染症への取り組みが重要な課題となっており、また、化学物質、公害等、身体に深刻な影響を与える健康被害への対応が強く求められている中、このような課題に的確に対応できるよう「保健所」と市民の健康に関する検査研究を行なう「(仮称)健康科学研究センター」との複合施設として、「(仮称)さいたま市保健衛生会館」の建設が、平成17年1月から平成19年4月の完成を目標に始まっている。

さいたま市保健衛生会館完成予定図



この施設の完成により、広く市民の健康の保持や増進を図る中核として、また健康危機管理の総合拠点として貢献できる施設として期待されます。

なお、当施設のオープンにより、大宮区吉敷町1丁目の県の大宮合同庁舎内に置かれているさいたま市保健所は、中央区鈴谷の当施設に移転することになります。

6月定例議会終わる

6月8日から始まった定例議会は、40件に及ぶ「指定管理者制度の導入」に関する各施設条例の改正を中心に議論がなされ22日に閉会しました。

指定管理者制度とは、スポーツ施設や福祉施設、駐輪・駐車場等の公共施設の管理運営を民間事業者任せにすることができるようにする制度で、今議会での条例可決により平成18年4月から223施設が当制度の導入対象となった。これにより民間のノウハウや企画力が取り入れられ管理経費の節減につながる事が期待されています。

鉄道博物館 本年度着工

鉄道博物館コンセプト

鉄道博物館完成予定図



さいたま市が強く要望し、JR東日本が創立20周年記念事業のメインプロジェクトとして本年2月に計画概要を発表した鉄道博物館は、その後、財団法人東日本鉄道文化財団でJR社内外の意見を聞きながらより魅力あるプロジェクトにすべく検討を進めて来ましたが、施設内容や、展示車両がほぼ決まり、今年の冬頃本体工事に着手して、2年後の平成19年秋頃の開業を目指して現在設計中です。

展示車両36台は、いずれも現在の交通博物館や東京総合車両センター、大宮総合車両センターなどに展示されているもので歴史的にたいへん貴重な車両ばかりで、9,500m²の展示スペースを見事なものにしてくれると思います。

周辺整備を担うさいたま市においても、今年度から警察前通りの立体化に向けて事業化の手続きに入っており、平成20年頃の完成を目指す予定にしています。

博物館へのアクセスはまだ発表になっていませんが、ニューシャトル大成駅でのエスカレータの設置についてさいたま市で予算化されており輸送力の向上に寄与すると思われます。

しかしニューシャトルだけに頼るのでは少々心もとないところもあり、私としては大宮駅から博物館行きのシャトルトレインを提案します。JR大宮工場内も博物館の一部として見せることもユニークなのではないかと思えます。

合併記念見沼公園(セントラルパーク)着工

「見沼田圃に蘇る生き物たちとのふれあいと新しい市民交流の創造」をテーマとした合併記念見沼公園の工事が大宮区天沼町一丁目の見沼田圃で始まっている。自治医大医療センター、大宮消防署防災センター、芝川小学校に隣接し、芝川に沿った3.9haを公園として造成するもので、首都圏有数の自然資源であるこの見沼田圃に残された緑地や水辺を保全・活用・創造し、人と自然が共生する緑豊かな都市空間を目指して取り組まれています。

合併記念見沼公園設計計画



公園内は、災害時の防災空間とスポーツ、ピクニック、イベントなど市民交流の空間とを兼ねた、自然草地を主体とする交流広場(約8,000m²)、ピオトープとして多様性に富んだ生物環境を創造し、木製デッキを配置して公園利用者が自然観察や自然を楽しむことのできる沼と池(約10,000m²)、そして、駐車場と管理棟を中心として並木を配置し、広場と池をつなぐプロムナードから構成されています。この地区は18年度中の完成を見込んで鋭意工事に取り組んでいますが、当エリアが完成した後はさらに南側に拡張の予定となっています。

その後も既存の緑地や新たに形成される緑道、河川、斜面林などを結び見沼田圃全域から市、県、首都圏へと広域的な水と緑のネットワークの展開を図ろうとしています。

【皆様からのご意見】

「市会議員は住民の窓口です。」

“安全安心な街づくりを!”

先般、大宮駅東口商店街連絡協議会などが街頭犯罪を防ごうと、大宮銀座通りの街頭や南銀座・中銀座地区に34台の防犯カメラを設置したという新聞記事を見た。

該当地区を歩くときは、カメラに映らないように歩かなければならないと思ったのは、私だけではないだろう。まあ、冗談はともかくとして、このような取り組みが犯罪を抑止し、犯罪のない街づくりに効果があることは事実だと思う。また、県内の犯罪の20%を占めるさいたま市の汚名を返上するきっかけのひとつにもなる。大宮区内でも、ボランティアによる防犯活動が多く展開され、市民の関心も高くなっている。今後とも行政・民間一体となった協同により、犯罪の少ない安全安心な街づくりを進めていくことが必要だ。

また、昨年は全国的に、地震や台風などの被害に遭われた方が多かった。また今年に入っても九州北部での地震が相次いでいる。災害の少ないさいたま市に住んでいても、我が家の地震対策はこれでいいのかと自問するところである。被災対策は、地域の総合力が大切で、必要とされているが、現実的には大変お粗末な現状である。いざとなったら、どうなるのか不安でいっぱいである。新しい地域社会の醸成が基本ともなるのだろうが、官と民による早急な対応を想定した取り組みがハード面、ソフト面で強く望まれる。

【先ごろテントを購入した市民】